2025 年 2 月 10 日

バンク・セントラル・アジア（BBCA）

貸出拡大戦略として「サステイナブル・ファイナンシング」推進。モバイル＆ネットバンキングへのシフトで経費率改善

インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG BBCA:IJ | REUTERS BBCA:IJ

- 2024/12通期は、営業収益が前期比9.7%増、当期利益が同12.7%増。純金利収益、非金利収益とも増加し、経費率も改善した。
- 純金利マージン（NIM）の伸び鈍化も、大企業と中小企業向けを中心に貸出残高が増加。手数料・コミッション収入も堅調に増加した。
- 貸出拡大戦略として「サステイナブル・ファイナンシング」を推進。モバイル&インターネットバンキングへのシフトで経費率改善を見込む。

What is the news?

1/23発表の2024/12通期は、営業収益が前期比9.7%増の107.4兆IDR、経費率が同2.6ポイント低下改善の31.5%、貸倒引当金繰入額が同51.3%増の2.0兆IDR、当期利益が同12.7%増の54.8兆IDRだった。貸出残高の伸びを受けた純金利収益の増加に加えて非金利収益も堅調に推移。不良債権関連費用が増加したものの、経費率改善が最終増益に寄与した。4Q（10-12月）の前四半期比は、営業収益が0.4%減（27.5兆IDR）、純利益が3.1%減（13.8兆IDR）、貸出の質に係る12月末の不良債権比率（グロス）が0.3ポイント低下改善の1.8%だった。

通期の営業収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比 9.5%増の 82.3 兆 IDR。純金利マージン（NIM）が同 0.3 ポイント拡大の 5.8%に加え、12 月末貸出残高が同 12.5%増と伸びて増収に寄与した。②非金利収益は同 10.2%増の 25.2 兆 IDR。その内、主力の手数料・コミッションが同 8.4%増の 18.8 兆 IDR と堅調だった。

通期のセグメント別貸出残高は、①大企業向け（コーポレート）が前期比 15.7%増の 426.8 兆 IDR、②商業向けが同 8.9%増の 137.9 兆 IDR、③中小企業向けが同 14.8%増の 123.8 兆 IDR、④消費者向けが同 12.4%増の 223.7 兆 IDR（うち、住宅ローンが同 11.2%増、自動車ローンが同 14.8%増、パーソナル・ローンが同 12.8%増）、⑤シャリア（イスラム金融）向けが同 12.8%増の 10.7 兆 IDR だった。

How do we view this?

同社は、国連の定める SDGs(持続可能な開発目標)のうち 9 分野に係る融資を「サステイナブル・ファイナンシング(SF)」と称し重点的に拡大。SF は、①環境に係るグリーンファイナンシング、および、②貧困者向け小口金融サービス（マイクロファイナンス(Micro)）と中小企業 (SME)向けを含んだ「ソーシャルファイナンシング」の 2 部門から構成される。SF の 12 月末残高が前期比 12.5%増の 229 兆 IDR に拡大。内、グリーンファイナンシングが同 13.5%増の 99 兆 IDR、ソーシャルファイナンシングが同 11.9%増の 130 兆 IDR と伸長。

前期（通期）のモバイル&インターネットバンキングは、取引件数が前年同期比 24%増、取引金額が同 14%増と拡大。費用の高い営業店取引からデジタルチャネルへの移行加速で一層の経費率改善が見込まれよう。

業績推移 ※参考レート 1IDR=0.0092円

事業年度	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F	2026/12F
売上高(十億IDR)	95,717	110,532	120,830	116,782	126,003,511
当期利益(十億IDR)	40,735	48,639	54,836	59,045	63,490
EPS(IDR)	330.00	395.00	445.00	481.32	517.83
PER（倍）	24.59	23.15	21.74	19.43	18.06
BPS(IDR)	1,792.89	1,965.98	2,130.53	2,352.60	2,527.50
PBR（倍）	4.53	4.65	4.54	3.97	3.70
配当(IDR)	205.00	270.00	（未定）	313.88	337.66
配当利回り（%）	2.53	2.95	-	3.36	3.61

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(IDR)	**313.88**	（予想はBloomberg）
終値(IDR)	**9,350**	2025/2/7

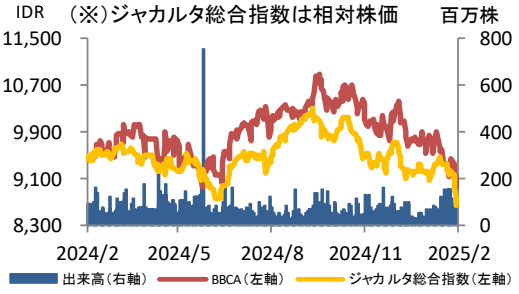
会社概要

1957年に設立されたインドネシアの大手商業銀行の一つ。1998年のアジア通貨危機の際、国有化され、インドネシア銀行再建庁（IBRA）のもと資本増強・リストラに取り組んだ。その後2000年に再上場を果たした。トランザクションバンキングに重点を置いており、大企業、中小・零細企業、消費者向けに貸出など金融サービスを提供している。アセアンの金融機関では時価総額でシンガポールの大手銀行DBSホールディングス（DBS）と首位を争う。

主要な子会社には、香港で金銭貸付や送金を行うBCAファイナンス、シャリアバンキングを行うBCAシャリアバンク、有価証券の委託売買、引受・売出しを行うBCA Sekuritas、主に損害保険を手掛けるBCA Asuransi Umum、運転資金ローンや多目的ローン、オペレーティング・リースなどを提供するCentral Santosa Finance、ベンチャーキャピタルのCentral Capital Venturaなどがある。

企業データ（2025/2/10）

ベータ値	0.82
時価総額（十億IDR）	1,127,967
3カ月平均売買代金（十億IDR）	794.8



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2025/2） （%）

1.PT DWIMURIA INVESTAMA ANDALAN	54.94
2.FMR	2.84
3.PENGENDALI PIHAK AFILIASI	2.46

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

フィリップ証券
A member of PhillipCapital

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101　URL：http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示＞
・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。